

第6回野生動物保全繁殖研究会大会 研究発表題目一覧 (2023.7.30版)

氏名は筆頭発表者名のみを記載しています。記載事項に間違いや漏れがありましたらご連絡ください。以下の発表題目の順は、発表順ではありません。後日プログラムをお知らせします。

この題目一覧は、随時更新しますので、HPで最新版をご確認ください。

1. 研究発表：口頭発表（12題） 8月28-29日

	発表題目（仮題）	発表者	所属
1 ○	スマトラトラ繁殖の取り組みとホルモン動態の比較および子の成育過程について	高岡英正	恩賜上野動物園
2	スマトラトラの人工授精のためのホルモンプロトコルの検討	柳川洋二郎	北海道大学
3 ○	アムールヒョウの自然発情周期に排卵誘発剤と用手採精新鮮精液を用いた人工授精の試み	小澤賢一	東武動物公園
4 ○	【話題提供】井の頭自然文化園におけるアムールヤマネコの繁殖～日常の飼育管理の中で繁殖のためにできる小さな取り組み～	唐沢瑞樹	井の頭自然文化園
5	飼育下ツシマヤマネコの自然繁殖の現状と課題	足立 樹	西海国立公園 九十九島動植物園
6	希少野生動物配偶子バンクの構築と保存配偶子を用いた生殖技術の開発	金子武人	岩手大学理工学部
7	ツシマヤマネコをはじめとする野生ネコ科動物の卵子保存	藤原摩耶子	京都大学 野生動物研究センター
8 ○	オオアシトガリネズミの繁殖事例	川上壮太郎	多摩動物公園
9 ○	神戸どうぶつ王国におけるハシビロコウの行動の季節変化	奈良崎泉	大阪大学大学院 人間科学研究科
10 ○	飼育下テナガザルの繁殖事情（現在の問題と取り組みについて）	木村嘉孝	宇部市ときわ動物園
11 ○	飼育下ハイローリーモンキーの雌個体における糞中の性ステロイドホルモン動態を指標とした繁殖生理の解明	小林夏子	横浜市繁殖センター
12 ○	GnRH ワクチンおよび GnRH 徐放剤による飼育動物の繁殖および闘争抑制効果の検証	對馬隆介	宇部市ときわ動物園

次頁にポスター発表一覧があります。

2. 研究発表：ポスター発表（14題）

	発表題目（仮題）	発表代表者	所属
1	動物園水族館繁殖研究アライアンスの活動報告（2022年度）	尾形光昭	動物園水族館繁殖研究アライアンス
2	アミメキリンにおける3軸加速度センサーを用いた活動量測定を試み	林田 茜	西海国立公園 九十九島動植物園
3	雌ゴールデンターキンにおける糞中の性ステロイドホルモン動態の長期モニタリングによる繁殖生理の解明（第2報）	吉田智紀	岐阜大学大学院 連合農学研究科
4 ○	フタコブラクダにおける採精及び人工授精の取り組みについて	田中紘子	仙台市八木山動物公園
5 ○	インドサイにおける糞中の性ステロイドホルモン代謝物の動態と行動からみた発情周期の把握と妊娠判定	神崎野道	岐阜大学大学院 自然科学技術研究科
6 ○	死亡個体からの精液回収における課題－過去の事例まとめとインドサイの一例	高柳真世	東京動物園協会 野生生物保全センター
7 ○	飼育下スナドリネコにおける発情行動パターンと糞中エストロジェン濃度動態からみた発情周期	井戸優海	岐阜大学大学院 自然科学技術研究科
8 ○	飼育下の雌雄アムールヤマネコにおける糞中の性ホルモン代謝物濃度動態と行動を指標とした発情期および妊娠期の非侵襲的モニタリング	井戸優海	岐阜大学大学院 自然科学技術研究科
9	ネコ科動物における糞中の性ステロイドホルモンの簡易抽出および簡易測定を検討	加藤 輝	岐阜大学大学院 自然科学技術研究科
10 ○	コツメカワウソの糞中性ステロイドホルモンの簡易抽出方法の検討	宮側賀美	大阪・海遊館
11	ジャイアントパンダの新獣舎移動に伴う排泄物中コルチゾールと行動を指標としたストレス状態の把握	楠田哲士	岐阜大学 応用生物科学部
12 ○	ムツオビアルマジロにおける糞中の性ステロイドホルモン濃度動態および陰部出血からみた発情周期と雌雄の生理的關係	福井 杏	岐阜大学 応用生物科学部
13 ○	バンドウイルカ血中の性ホルモンの経時的動態解析～複数の市販化キットを組み合わせた考察～	安齋政幸	近畿大学 先端技術総合研究所
14 ○	新江ノ島水族館におけるバンドウイルカ（ <i>Tursiops truncatus</i> ）の出産日推定の取り組み	伴野竜次	新江ノ島水族館

（問い合わせ先）

野生動物保全繁殖研究会 研究調整担当 E-mail abstracts@arrwc.org

楠田哲士（岐阜大学応用生物科学部）

尾形光昭（横浜市繁殖センター）

笹野聡美（往診動物病院 Fauna Vet's）